

の環境管理は、メッシュにおける環境濃度管理を行うこととしているので、長期的な評価を行ううえで最も合理的な年平均値として設定する。

二酸化硫黄の環境保全水準は、昭和50年度から昭和53年度までの4か年間の一般環境大気測定局の測定結果を用い、1時間値の1日平均値の2%除外値と1時間値の年平均値との回帰式により、環境基準値の1時間値の1日平均値0.04 ppmを満足する年平均値0.016 ppm以下をもって環境保全水準とする。

二酸化窒素の環境保全水準は、二酸化硫黄の場合と同様、昭和50年度から昭和53年度までの測定結果を用い、1時間値の1日平均値の98%値と1時間値の年平均値との回帰式により、県が目標としている1時間値の1日平均値0.04 ppmを満足する年平均値0.016 ppm以下をもって環境保全水準とする。

## 2. 環境容量の設定

大気質に係る環境容量の設定に当たっては、二酸化硫黄、二酸化窒素に係る環境保全水準を維持し得る許容排出量として設定することを検討したが、発生源の位置、煙源事象などにより変動することから設定することが困難であり、本計画においては、環境保全水準をもって環境容量とすることとする。

## 第4節 環境管理

二酸化硫黄の環境濃度は、昭和52年度では県全域で環境保全水準を満足しているが、昭和65年度では仙台市を中心に汚染範囲も拡がり、特に、仙塩地域の15メッシュで環境保全水準を超過するものと予測される。

二酸化窒素の環境濃度は、昭和52年度では仙塩地域の49メッシュで環境保全水準を超過しており、昭和65年度では36メッシュで環境保全水準を超過するものと予測される。一般に、工業地帯では環境濃度が高くなるが、市街地では自動車排出ガス規制の効果により低くなるものと予測される。

なお、今後、石油に替るエネルギー源として石炭の使用量が増加する場合には大気質への影響が大きくなるおそれがある。

このような現況と将来予測を踏まえ、大気質の環境管理に当たっては、環境保全水準が満足されるよう、メッシュにおける環境管理を行うこととし、一般環境大気測定局・自動車排出ガス測